

## 2020年度 外部アドバイザー委員会 議事記録 (案)

実施日：2020年12月19日(土)

時間：14:00-16:00

会場：オンライン

出席者：磯崎、金澤、黒澤、五関、佐々木、佐藤、瀬戸島、田中、千葉、中村、竹村、竹内、安井、山中、鶴川、高橋、中山、村瀬、金丸、中尾、飯泉、宇野、太田

### 外部アドバイザー委員 (敬称略)

磯崎 行雄	東京大学大学院総合文化研究科
加藤 碩一	国立研究開発法人産業技術総合研究所
金澤 直人	中央開発株式会社
黒沢 大陸	朝日新聞大阪本社
五関 利幸	株式会社パスコ
佐々木 和彦	応用地質株式会社
佐藤 尚弘	明治コンサルタント株式会社
瀬戸島 政博	公益社団法人 日本測量協会
田中 明子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
千葉 達朗	アジア航測株式会社
中田 節也	防災科学研究所火山研究推進センター
中村 裕昭	株式会社 地域環境研究所
平田 大二	神奈川県立生命の星・地球科学博物館
藤井 敏嗣	NPO 法人環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所
吉田 健次	八千代エンジニアリング株式会社

### 地球科学科

竹村 貴人	教授	学科主任/JABEE 委員長
竹内 真司	教授	幹事長
安井 真也	教授	学科主任/JABEE 委員長
山中 勝	教授	
鶴川 元雄	教授	
加藤 央之	教授	
高橋 正樹	教授	
中山 裕則	教授	
山川 修治	教授	
村瀬 雅之	准教授	学務委員
金丸 龍夫	准教授	企画広報委員
中尾 有利子	准教授	学生生活委員会
飯泉 佳子	准教授	
宇野 史睦	准教授	

議事次第

- ・主任挨拶（主任）
- ・学科の状況（主任）
- ・就職状況（幹事長）
- ・JABEE 継続審査の概要（幹事長）
- ・コロナ禍での教育（効果と課題）（学務）
- ・議論
- \* 司会：幹事長

- ・開会宣言（竹内）
- ・主任挨拶（竹村）

主任から、この1年間の大学の状況を総括して、挨拶があった。

4月 緊急事態宣言が出て、大学もすべて遠隔授業になり、対応に迫られた。野外実習も実施不可能となった。9月になり、フィールド活動におけるガイドラインが理系学科でまとめられ、野外実習はガイドラインに沿って実施できるようになった。

11月にオンラインでジオフェスを実施した。発表動画を視聴していただき、評価もしていただき、ご参加いただいた委員の皆様には御礼を申し上げたい。

今後も遠隔授業に対応しながら、できることを最善を尽くしたい。

- ・昨年度より外部アドバイザー委員就任された、田中明子氏のご紹介があった。
- ・教職員、外部アドバイザーとも自己紹介があった。

- ・就職状況について（竹内）

資料に基づき、2020年度8月現在の就職状況が説明された。

専門就職（全体）21/66のうち、JABEE コース履修者を対象とすると12/17となることが報告され、2019年度から2015年度までさかのぼっての説明があった。

/

（質問）JABEE コース GPAを2.5以上としたのはいつからか  
→2018年度から（昨年度の資料に基づいて、説明があった）

（質問）やめた人（退学者？）の補充はされるのか  
→教員の負担を考えると、慎重に対応する必要がある

→GPA2.5をクリアできなくても、コンサル就職希望者がいるので、基準は検討が必要があるかと思う（竹村）

- ・千葉先生自己紹介があった。

・高橋先生自己紹介があった。

この学科は、応用地学科時代から、「理学」を追求してきたが、社会からの要請も取り入れていかないといい、当時、外部アドバイザー委員会立ち上げた。令和の学科運営について、これからもよろしくお願ひしたい。

・JABEEの継続審査について

コロナ感染拡大に伴う措置として、継続審査が延期となった。継続審査の変更点について、説明があった。また、2020年度修了生は、認定が継続していることが確認された。審査資料の準備状況の説明があった。

日本地質学会で竹内教授が、「大学におけるJABEE教育（私立大学の場合）」の概要を紹介することになっており、前向きな話をする予定であると述べられた。

（質問）前回の継続審査で指摘されたところはどこだったか

→「総合教育」など専門科目以外の評価ができているのかというところだったため、学科では介入ができない部分だった。

→学科内では、総合教育科目「倫理学1」で達成度評価を担保していた。

→評価基準が変更になったので、この状況ではうまくいくのではないか

（質問）学科内で問題がなければ、大丈夫ということか

→個々に確認が必要である

（また指摘された他の点として）教員間のコミュニケーションがとれているか？という問題は、技術者教育委員会をもって、コミュニケーションを図っているが、内規で明文化されていないことが指摘された

→内規の整備というのは、学科のルールを整備していく

・今後は、JABEEの審査料について、これまでは学部が支払ってくれたが、今後は厳しくなると予想される。他大学でも審査料の捻出が問題になってきている。

（質問）大学の地質学教育は本質的にやっけていけるのか

→日本では40校ある

→人事的には

JABEEを持っているか聞くが持っていない人が多い

学生のうちにJABEEがあれば受けておいたほうがいいと行っている

・令和2年度授業形態について

資料に基づき、令和2年度の授業形態について説明があった

(質問) Zoom でやってきたが、対面実習をしたときにどうしても参加できない学生がいたので、教室から中継する必要があったが、ML はカメラ付き PC がなかった。同時中継を見せられるような設備が必要になるのではないか。

→教室設備が十分でなく、個人で準備しなければならないという意見が多くあった要望は挙がっているが、予算が厳しいので実現ができないが、今後も要求し続ける

(自由討論)

大学で地質学を学んできたといっても、就職してみると、心もとないと感じる。地質学全体の教育と技術者教育とは違うが、需要と供給が縮小しているということはないのか

→防災、災害に係るニーズは多い

→学部教育では(専門的な教育が)難しい。

大学院修士課程の充実させ、基礎的な専門技術の教育を。

最近、社会人の論博を数人だした。社会人の受入を増やしたい。

→修士教育を充実させるほうが先決だ。

現地から(録画などを)見せるだけでは、成績評価が問題

→一人ひとりに違う課題を出せばどうか。個人で取り組む、剽窃が起こらない課題。

測量協会にいるが、オンライン型でやったときに、LMS を使っているか

JABEE 技術者教育にかかる科目はオンデマンドにできるのではないか

→LMS を使って、リアクションペーパーを回収できる。Zoom などのときは、チャットでリアクションさせる。

→ほとんどのオンデマンド型授業になっていると思うが、実際の手を動かす部分はもどかしい。専門性によって難しいところがある。

→Blackboard の利用について

著作権上の問題があり、履修登録した学生でないと見れないことになっている。

司会：時間が迫っているが、まだご発言されていない委員の方に、ぜひ、一言いただきたい。

・オンライン教育についてジャーナリストとして、取材などを通して、紙文化とオンラインとでは、伝わるものが違ってくると思う。

メンタルが心配となってくる。

朝会、夕会をやっていて、雑談から企画が生まれることがあるので、コロナ禍でそれができない。

若い世代は危険な世代（＝自殺者が多い）と言われている。

・東大でも学生のレポート鬱が問題となり、学部長から指令があった。

最近、学会のショートコース（オンライン講演？）を聞いたが、講演者となると準備が大変だが、聞く方は楽だった。

スピリットが高い学生と低い学生で、差が大きくなる。

Zoomは便利だが、ハイブリットでやっていかないとと思う。

・パスコにも地質卒業が入ってくると優秀である。

実務社会では活躍されている。

測量、データ処理など技術を活かしている。

・産総研では学生と接触がないので、楽しみにしていたが、今期は反応がみえず残念であった。

オンデマンド授業を試みたが、学生の立場に立ち寄り添っていかないと、落ちこぼれが増えると感じた。

司会：貴重なご意見ありがとうございました。

以上